

# 「馬町空襲」語り継ぐ

## 東山に石碑 住民の会が除幕

米軍機が京都市東山区馬町地域を爆撃し、多くの死者が出た「馬町空襲」から69年となった16日、当時救護所が置かれた白河総合支援学校東山分校(同区)に空襲を伝える石碑が

完成し、除幕式が行われ、完成した石碑は二つ。高さ約1.5メートルの石は「馬町空襲の地」と彫り、高さ約65センチの石は、被害の概要として「死者四十余名 負傷者五十余名」と記し「大きな被害を受けた」とつづいた。

「馬町空襲を語り継ぐ会」が建立した。昨秋から受け付けた募金には目標を上回る約130万円が寄せられた。

石碑は住民でつくる「馬町空襲を語り継ぐ会」が建立した。昨秋から受け付けた募金には目標を上回る約130万円が寄せられた。

式後には、伯母が空襲で犠牲となった福田輝明さん(65)と千葉貞船橋市市が献花した。

馬町空襲は1945年1月16日深夜にあった。被害当時、当局からかん口令が出され調査が進まず、正確な被害者数は分かっていない。同会は風化を防ぐと2012年に結成した。今後も毎年同じ日に式典を開く予定。



空襲被害を後世に伝える石碑を除幕する「馬町空襲を語り継ぐ会」のメンバーら(京都市東山区・白河総合支援学校東山分校)

(浅井佳穂)